

令和5年3月28日

報道機関 各位

泉南清掃事務組合敷地内における土壤汚染について

泉南清掃事務組合では次期ごみ処理施設（新工場）の建設計画にあたり、地盤調査を実施していますが、この調査と併せて土壤調査を実施したところ、以下の有害物質が検出されましたので、下記のとおりお知らせします。

記

●場 所：大阪府阪南市尾崎町 532 番地

●汚染状況：

土壤汚染物質	基準値		検出値（最大値）
鉛	含有量※1	150mg/kg	3,200mg/kg
	溶出量※2	0.01mg/ℓ	0.035mg/ℓ
砒素		0.01mg/ℓ	0.023mg/ℓ
六価クロム		0.05mg/ℓ	0.06mg/ℓ
ふっ素		0.8 mg/ℓ	0.86mg/ℓ

*この土壤調査は、土壤汚染対策防止法に基づくものではありません。

※1 直接摂取によるリスクに対する基準（土壤含有量基準）

特定有害物質が含まれる汚染土壤を直接摂取することによる健康リスクに対して定められている基準で、一生（70年間）汚染土壤のある土地に居住し、1日当たり子ども（6歳以下）200mg、大人100mgの土壤を摂取することを想定して設定されています。

※2 地下水経由の摂取によるリスクに対する基準（土壤溶出量基準）

汚染土壤から特定有害物質が地下水に溶出し、その地下水を飲用することによる健康リスクに対して定められている基準で、一生（70年間）1日2Lの地下水を飲用し続けることを想定して設定されています。

*事業者が行う土壤汚染リスクコミュニケーションのためのガイドライン（公益財団法人 日本環境協会）による。

●対 応：現在は、アスファルト舗装等で覆われているため、『基準値を超過した土壤』が飛散する恐れはありません。また、敷地内の地下水の状況を調査するため、井戸を設置します。

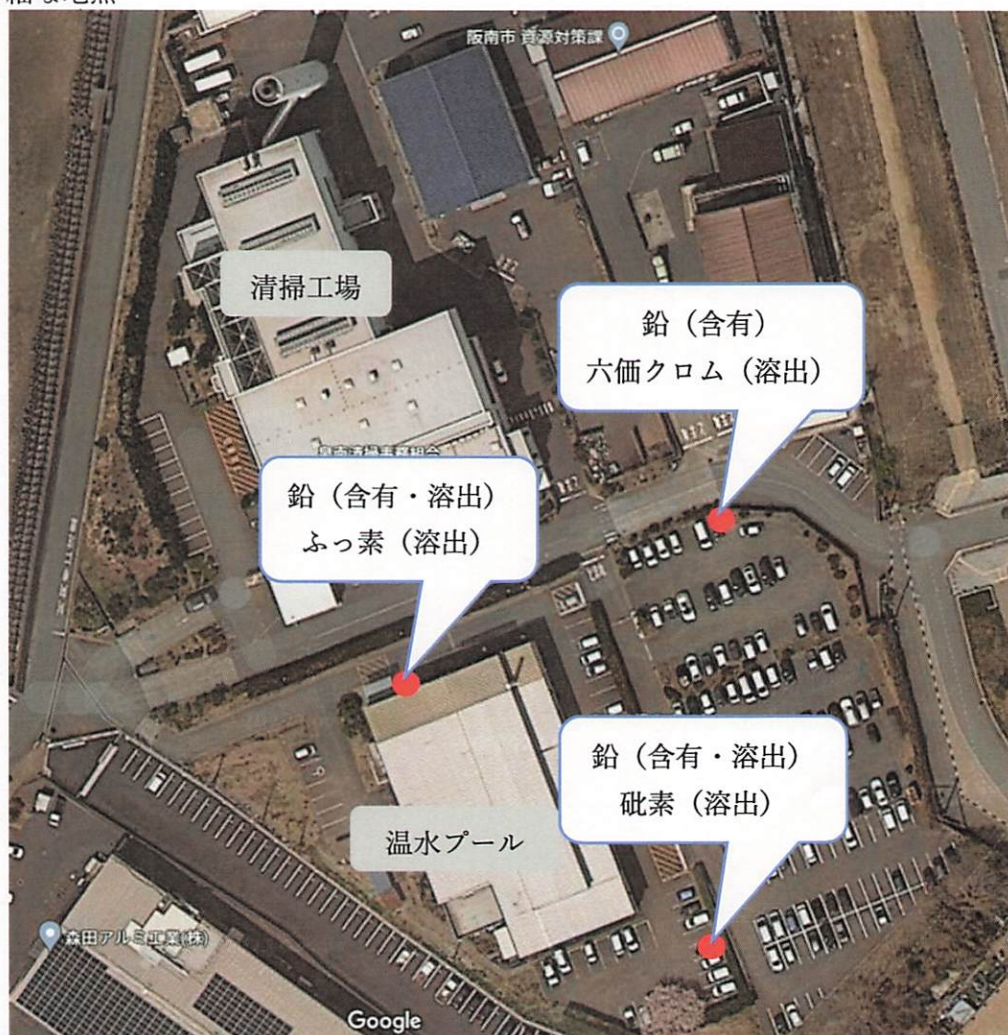
今後は、土壤汚染対策法に基づき、適正に対応していきます。

【参 考 1】

●住所：大阪府阪南市尾崎町 532 番地



●詳細な地点



※調査実施日：令和4年11月22日～令和5年1月20日

【参 考 2】

◆鉛

慢性毒性

高濃度の鉛による中毒症状として、貧血・消化管の障害・神経系の障害等があるといわれています。長期間ばく露され、血液中の鉛の濃度が血液 1 L 中 0.4～0.5mg を超えている場合に障害がみられるといわれています。

急性毒性

高濃度の鉛による中毒の症状としては、嘔吐、腹痛、下痢、血圧降下、乏尿、昏睡があります。

◆砒素

慢性毒性

一般的には目・鼻・喉等の粘膜の炎症や、筋肉の弱化、食欲減退、皮膚の黒色色素沈着、角質化、脱毛などがみられるといわれています。

急性毒性

嘔吐、下痢、脱力感、筋肉けいれん、嚥下困難、心室性不整脈、皮膚のびらん等の損傷が現れ、場合によっては昏睡後、死に到ります。

◆六価クロム

慢性毒性

経口摂取の場合には肝炎を起こすことが知られています。六価クロムを含んだ粉じんを長期間吸入した場合には、皮膚・呼吸器・肝臓等への障害、肺がんや鼻中隔穿孔(せんこう)（右の鼻の穴と左の穴の間壁の鼻中隔に穴があいている状態）があります。

急性毒性

粉じんの吸入による皮膚、気管、肺等の炎症や潰瘍、経口摂取による嘔吐、下痢・腹痛、尿量減少、肝障害、けいれん、昏睡等を起こし死に至るといわれます。

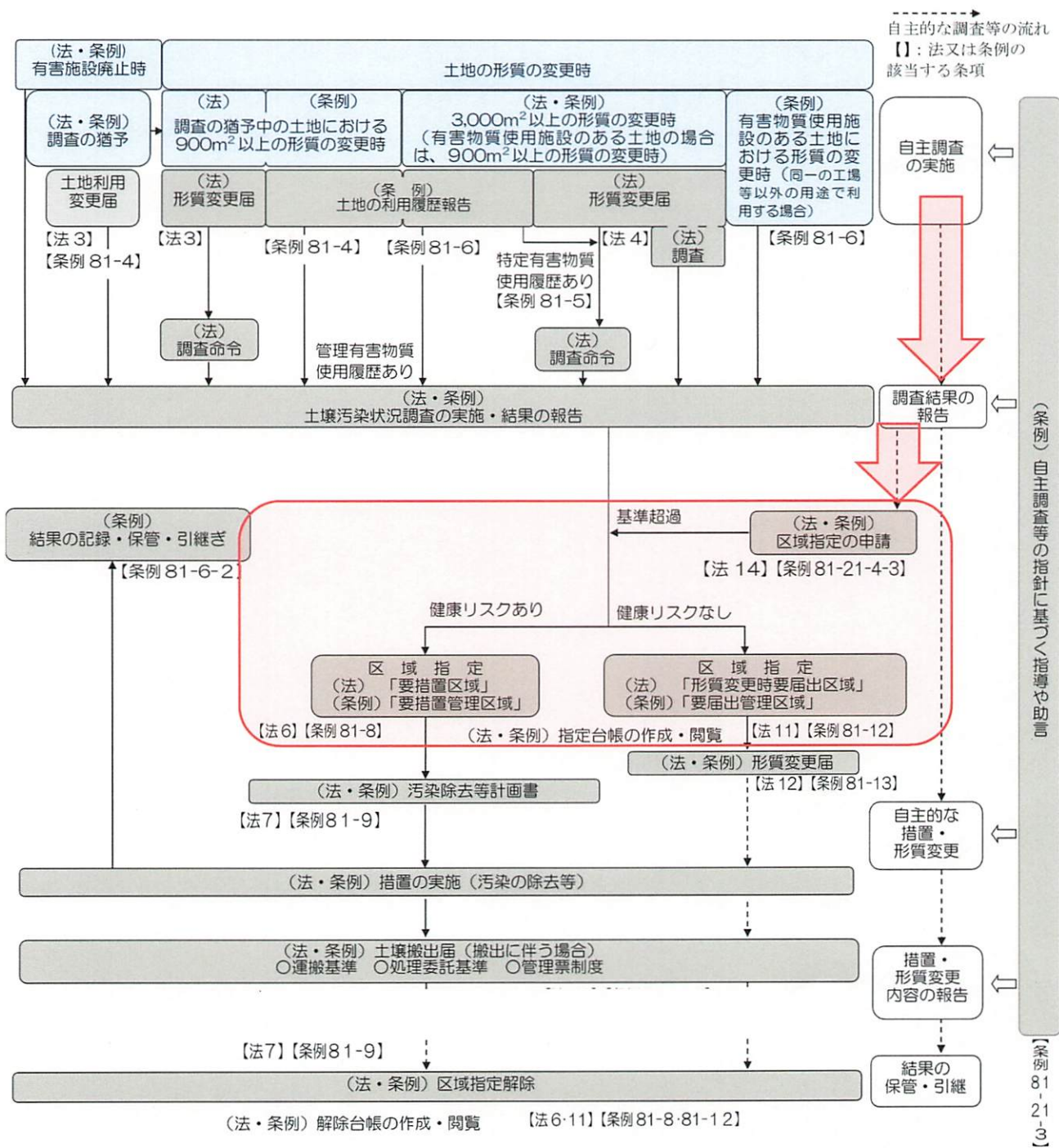
◆ふっ素

慢性毒性

ふっ素がカルシウムと結びつくことにより、体内のカルシウムが欠乏します。飲料水からふっ素を長期間摂取した場合、飲料水のふっ素濃度が水 1 L あたり 2mg 以上の場合に斑状歯を、1 L あたり 8mg 以上含まれる場合に骨硬化症を発症することが知られています。

急性毒性

体重減少、悪心（吐き気、嘔気）、便秘、無筋無力症、慢性のけいれん、肺充血、心臓失調などの症状があり、症状が重い場合、腹部の激痛、嘔吐、悪心中毒死に至るとされています。



土壌から基準超有害物質

阪南のゴミ処理施設予定地

泉南市と阪南市でつくる「泉南清掃事務組合」(阪南市尾崎町)は28日、施設内で新設しているゴミ処理施設の予定地の土壌から基準値を上回る鉛やヒ素などの有害物質が検出されたと発表した。現時点で健康被害はないという。

発表によると、同組合は昨年11月、新工場の建設工事に伴い、予定地の駐車場で地盤調査を開始。今年1月中旬、ボーリング調査で深さ1～10メートルの地中から土を採取して調べたところ、基準値の最大21倍の鉛のほか、同2.3倍のヒ素や同1.2倍の六価クロムなどが検出された。

同組合は今後、周辺の地下水に汚染物質が含まれていないか調べ、土壌の除去などの対策を進める。2030年度の完成予定が遅れる可能性はないという。